

I. 容器検査所登録及び登録更新について

容器検査所登録及び登録更新 事務手続きフロー	
必要書類	
1) 申請書類（2部提出、受付後1部控えとして返却）	
① 登録申請及び登録更新の申請は登録等の日の1月前までに行うこと。 申請書（様式第5、様式第6）	
② 委任状（法人で代表者以外が申請する際に添付し、国及び自治体を除く。）	
③ 設備等明細書	
④ 設備等図面、写真	
⑤ 計器類成績書（検査記録）	
⑥ その他参考資料	
2) 前回の登録証（新規登録の場合は必要なし。ただし、期限切れ等による新規登録の場合は必要）	
3) 検査主任者選任届（届出済みの場合は控えの写し）	
手続の流れ	
1 登録申請	
2 現地調査	
3 基準適合	
4 登録	

※容器保安規則に定められた再検査設備を変更若しくは新設することを必要とする登録内容（容器の種類、内容積の上限、充填ガスの種類等）の変更を伴う場合は、登録をし直すものとする。

1. 容器検査所申請様式について

容器検査所設備等明細書（チェックリスト）

1. 検査所			
名称		電話：	
許可等	製造許可	年	月
	日	第	号
	前回登録	年	月
	日	第	号（登録番号）
2. 保安管理			
検査主任者	氏名（免状 選任年月日 年 月）		
検査作業員数	名		
3. 登録内容			
容器区分	内容積の範囲	ガスの区分	検査所刻印
付属品の再検査登録（有・無）			
ガス区分			
容器区分			
継目なし	150ℓ未満		
	150ℓ以上		
溶接	150ℓ未満		
	150ℓ以上		
超低温			
車両燃料用			
タンクローリー用			
ガスの名称			
備考			

5 設備等の概要	
容器の区分	
設備等	
1 残ガス処理設備	
バルブ脱機 (台)	
バルブ着機 (台)	
残ガス回収ヘッダー (口数)	
容器転倒台 (連数×台数)	
残ガス燃焼設備 (有・無)	
残ガス放出管 (高さ m)	
残ガス除外設備 (薬液等)	
2 外面研磨設備	
ショットブラスト (基)	
ブラシ (手動・自動等)	
3 内部研磨設備 (有・無)	
4 内部洗浄等設備	
容器転倒台 (連数×台数)	
洗浄方式 (水・スチーム等)	
油分離槽 (槽数)	
廃水処理 (循環・薬液等)	
乾燥設備 (スチーム・電気等)	
5 音響検査設備 (ハンマー等)	
6 外面検査設備	
スケール (ノギス、ゲージ等)	
専用照明 (有・無)	
7 内面検査設備	
照明電源 (電池、100V等)	
8 非破壊検査設備 (浸透等)	

<p>容器の区分</p> <p>設備等</p>			
<p>9 耐圧検査設備</p> <p>昇圧ポンプ (定格 MPa)</p> <p>水筒 (内径×長さ c m)</p> <p>膨張計 (メモリ小～大 cc)</p> <p>圧力計 (メモリ小～大 MPa)</p>			
<p>10 気密検査設備 (方式)</p>			
<p>11 皮膜検査設備 (方式)</p>			
<p>13 塗装設備</p> <p>塗装方式 (方式)</p> <p>塗装ブース (湿式・乾式等)</p> <p>乾燥方式 (熱風・自然等)</p> <p>底面特別塗装 (有・無)</p>			
<p>14 断熱検査設備</p> <p>気化量測定 (流量計等)</p> <p>温度計 (メモリ小～大 °C)</p>			
<p>15 付属品検査設備</p> <p>試験台 (メーカー)</p> <p>最大テスト圧力 (MPa)</p> <p>圧力計 (メモリ小～大 MPa)</p>			
<p>16 その他の設備等</p> <p>残ガス容器置き場 (m²)</p> <p>検査済み容器置き場 (m²)</p> <p>ガス警報器 (対象ガス名・数)</p> <p>ガス濃度計 (有・無)</p> <p>換気設備</p> <p>容器運搬設備</p> <p>消火設備</p> <p>基準圧力計</p>			

6 帳簿類	
再検査記録	
設備台帳	
設備修理記録	
設備点検記録	
圧力計検査記録	
再検査実績表	

7 指摘事項等

2. 容器検査所設備等明細書（チェックリスト）記入要領

1. 検査対象容器の項目

(1) 検査対象容器は、ガス区分ごとに再検査しようとする容器の最大の内容積(ℓ)を記入する。

(2) ガスの区分

ア 可燃性ガス 容器保安規則第2条に規定されたガス

イ 毒性ガス 同上

ウ 不活性ガス等 元素周期律表零属に属する元素ガス、窒素、炭酸ガス、フロン、空気及び酸素

(3) 容器の区分

ア タンクローリー用容器とは、車両に固定して使用する継ぎ目無し容器、溶接容器及び超低温容器とする。

イ 超低温容器には低温容器も含むものとする。

(4) ガスの名称

ガスの名称は、再検査対象容器に刻印（打刻）されているガスの名称とする。

2. 設備等の概要の項目

(1) 容器の区分

前記のガス区分及び容器の区分ごとの容器を別紙の例に示すように①、②などで表示し、それぞれに使用する設備等の該当するものについて記入する。

(2) ①、②などで表示した容器について、設備等の項目が該当しないか、または、設備等がない場合は当該の欄は空白とする。

(3) 設備等の内容は、各項目の（ ）内の事項に準じて簡明に記入する。

(4) 圧力計等の目盛り小～大は、圧力計等の最小の目盛り及び目盛りの最大の値を記入する。

(5) 容器の区分

前記のガス区分及び容器の区分ごとの容器を別紙の例に示すように①、②等で表示し、それぞれに使用する設備等の該当するものについて記入する。

3. 帳簿類

(1) 圧力計等の定期点検結果は、その内容が簡明に把握できるように整理しておくこと。

(2) 添付する再検査実績表は、毎年件に提出している調査票（前年度分）とする。

4. その他

検査所刻印の欄には、刻印を黒色スタンプで押印すること。

付属品の再検査登録（有・無）

原則として検査数の多い容器から①、②…とする。

ガス区分		可燃性ガス	不活性ガス
容器区分			液化ガスはLを付けて区分する。
継目なし	150%未満		② 70
	150%以上	① 130	
溶接	150%未満		130%未満の溶接容器（可燃性ガス）が検査対象容器であることを示す
	150%以上		
超低温		④ 130	継目なし、溶接、超低温の区分をする
車両燃料用			
タンクローリー用			③ 25000 (超低温)
ガスの名称		LPG	N ₂ CO ₂ O ₂ LN ₂
備考			

5 設備等の概要		
容器の区分	①	②
設備等		②は上記の70%未満の継目なし容器と対応する。
1 残ガス処理設備		①と共用脱機及び着機を1の容器脱機と兼用の場合、脱機兼用を示す。
バルブ脱機 (台)	1	①と共用
バルブ着機 (台)	1	①と共用
残ガス回収ヘッダー (口数)	5	
容器転倒台 (連数×台数)	3×2、1×1	
残ガス燃焼設備 (有・無)		
残ガス放出管 (高さ m)		
残ガス除外設備 (薬液等)		

設備等			
9 耐圧検査設備 昇圧ポンプ (定格 MPa) 水筒 (内径×長さ c m) 膨張計 (メモリ小～大 cc) 圧力計 (メモリ小～大 MPa)	60 (1台) 48×160 (1基) 0.1～500 (1個) 1～60 (2個)	最小目盛り0.1CC、最大目盛り500CCの膨張計が1個あることを示す。 設備がない場合は空白とする。	
10 気密検査設備 (方式)	N ₂ 石けん水		
11 皮膜検査設備 (方式)			
13 塗装設備			
塗装方式 (方式) 塗装ブース (湿式・乾式等) 乾燥方式 (熱風・自然等) 底面特別塗装 (有・無)	静電塗装 乾式 熱風 有り		

1. 設備の概要

容器の区分 設備等	L P	一 般	指 導 内 容
1 残ガス処理設備			配管にストレーナーが設置されていること。 P：50kg容器を処理できること。
バルブ脱機（台）	◎	◎	
バルブ着機（台）	◎	◎	
残ガス回収ヘッダー（口数）	◎	○	
容器転倒台（連数×台数）	◎	○	
残ガス燃焼設備（有・無）	○	○	
残ガス放出管（高さ m）	○	○	
残ガス除外設備（薬液等）		○	
2 外面研磨設備			LP：50kg容器を処理できること。 LP：スカート内側等を清掃できるもの。
ショットブラスト（基）	◎	○	
ブラシ（手動・自動等）	◎	◎	
3 内部研磨設備（有・無）		◎	
4 内部洗浄等設備			LP：50kg容器を処理できること。
容器転倒台（連数×台数）	◎	○	
洗浄方式（水・スチーム等）	◎	○	
油分離槽（槽数）	◎	○	
廃水处理（循環・薬液等）	△	○	
乾燥設備（スチーム・電気等）	◎	○	
5 音響検査設備（ハンマー等）		◎	
6 外面検査設備			LP：底面間隔も測定できること 底面を十分に照明できること
スケール（ノギス、ゲージ等）	◎	◎	
専用照明（有・無）	◎	○	
7 内面検査設備			照明電源（電池、100V等）
照明電源（電池、100V等）	◎	◎	
8 非破壊検査設備（浸透等）	△	△	

凡例 ◎：必要とする設備を表す

○：必要に応じて設備するもの

△：設備することが望ましいもの

容器の区分 設備等	L P	一 般	超 低	
9 耐圧検査設備				
昇圧ポンプ (定格 MPa)	◎	◎		
水筒 (内径×長さ c m)	◎	◎		
膨張計 (メモリ小～大 cc)	◎	◎		
圧力計 (メモリ小～大 MPa)	◎	◎		
10 気密検査設備 (方式)	△	△		
11 皮膜検査設備 (方式)	△	△		
13 塗装設備				
塗装方式 (方式)	◎	◎		
塗装ブース (湿式・乾式等)	◎			
乾燥方式 (熱風・自然等)	◎			
底面特別塗装 (有・無)	△			
14 断熱検査設備				
気化量測定 (流量計等)			◎	
温度計 (メモリ小～大 °C)			◎	
15 付属品検査設備				
試験台 (メーカー)	○	○	○	
最大テスト圧力 (MPa)				
圧力計 (メモリ小～大 MPa)				
16 その他の設備等				
残ガス容器置き場 (m ²)	◎	◎	◎	
検査済み容器置き場 (m ²)	◎	◎	◎	
ガス警報器 (対象ガス名・数)	◎	○		
ガス濃度計 (有・無)	○	○		
換気設備	◎	○		
容器運搬設備	◎	◎	◎	
消火設備	◎	○	○	
基準圧力計	△	△	△	

6 帳簿類	
再検査記録	検査内容を記載すること。 記載内容例（容器所有者名、容器記号、容器番号、内容積、圧力、全増加、恒久増加率、合否、不合格理由等）
設備台帳	
設備修理記録	
設備点検記録	作業開始時、及び終了時に点検した記録を記載すること。
圧力計検査記録	定期検査を行うこと
再検査実績表	